

2025 年 5 月 30 日

プレスリリース

(一社) 日本ロボット工業会
調査・統計部会

マニピュレータ、ロボット統計 受注・生産・出荷実績 2024 年 暦年【会員+非会員】について

◆調査概要

「マニピュレータ、ロボット統計 受注・生産・出荷実績 2024 年 暦年【会員+非会員】」は、当会のロボット産業需給動向調査を基に作成したもので、当会の会員及び非会員の調査対象企業による実績¹である。

◆業況

2024 年は、世界経済の先行き不透明感が高まる中、中国市況の悪化など、ロボットの需要環境は年間を通して弱さが見られた。

会員と非会員を含めた年間受注額は、対前年比 1.3%減の 8,321 億円、生産額は同 12.4%減の 7,811 億円と、それぞれ前年を下回った。出荷実績では、国内向けは自動車製造業向けが増加するなどトータルで増加となった。輸出は実装用が底入れする一方で、溶接用、マテハン用が各地域向けで大きく減少した。

受注・生産・出荷の各状況は以下の通り。

1. 受注

・受注台数	： 182,464 (台)	(前年比▲8.2%)	【2 年連続の減少】
・受注額	： 8,321 (億円)	(同▲1.3%)	【2 年連続の減少】

2. 生産

・生産台数	： 176,215 (台)	(前年比▲20.1%)	【2 年連続の減少】
・生産額	： 7,811 (億円)	(同▲12.4%)	【2 年連続の減少】

3. 出荷

・総出荷台数	： 181,412 (台)	(前年比▲20.2%)	【2 年連続の減少】
・総出荷額	： 8,252 (億円)	(同▲10.6%)	【2 年連続の減少】
一国内出荷台数	： 46,267 (台)	(同▲4.1%)	【2 年連続の減少】
一国内出荷額	： 2,289 (億円)	(同 + 2.9%)	【2 年ぶりの増加】
一輸出台数	： 135,145 (台)	(同▲24.5%)	【2 年連続の減少】
一輸出額	： 5,963 (億円)	(同▲14.8%)	【2 年連続の減少】

¹ サービスロボットを除く

3.1 国内出荷内訳

[業種別] 電気機械製造業向け

・ 国内出荷台数： 16,300 (台)	(前年比▲4.2%)	【2年連続の減少】
・ 国内出荷額： 800 (億円)	(同▲2.9%)	【2年連続の減少】

[業種別] 自動車製造業向け

・ 国内出荷台数： 12,921 (台)	(前年比+9.8%)	【3年ぶりの増加】
・ 国内出荷額： 612 (億円)	(同+11.6%)	【2年連続の増加】

3.2 輸出内訳

[用途別] 電子部品実装用

・ 輸出台数： 12,809 (台)	(前年比+13.0%)	【3年ぶりの増加】
・ 輸出額： 2,070 (億円)	(同+11.3%)	【3年ぶりの増加】

[用途別] 溶接用

・ 輸出台数： 25,563 (台)	(前年比▲31.6%)	【2年連続の減少】
・ 輸出額： 642 (億円)	(同▲31.8%)	【2年連続の減少】

◆2025 年見通し

2025 年は、米国の関税政策、地政学的分断による設備投資行動の抑制が憂慮される。一方で、足元では受注の好調さが継続しており、世界的な自動化要求はなお高い水準にあることを示している。不確定要素が重なり合っており、見通しには相応の不確実性が伴うものの、このような状況をふまえ、2025 年のロボット受注額は対前年比 4.6% 増の 8,700 億円、生産額は 6.3% 増の 8,300 億円といずれも 3 年ぶりの増加を予測としている。